

私の東京駅物語

鉄道ライター 原口 隆行

NHKラジオ
明日へのことば
2012年11月1日

原口隆行(はらぐち たかゆき、1938年9月21日 -)は、日本の鉄道・旅行ライター。東京都で出生し、上智大学経済学部経済学科を卒業。その後凸版印刷のアイデンセンターとして一時勤めるが、1982年以降はフリーとなっている。「鉄道ジャーナル」・「旅と鉄道」などによく寄稿を行い、現在に至る。元々は蒸気機関車専門のファンであったが、1975年の国鉄における全廃後は各方面に興味対象を広げた。1994年から約1年、JR東海の発行する年史『新幹線の30年―栄光の軌跡』の編集に携わった後、新幹線には強い関心を抱くようになり、『新幹線がわかる事典』などといった関連書をだすようになった。著作には、鉄道史に関わるものが多い。



2012年10月1日に5年に渡る復旧工事が完了、大正3年開業時の赤レンガの姿に戻り感激した。毎日、多くの人々が東京駅を訪れているが中年の女性が多い。丸ビルの5階展望テラスから東京駅が良く見える。丸ビル36階のイタリアレストランからの眺めが最高。レストラン予約は1ヶ月まちとか……

東京駅復旧の見所は、まず丸の内南口、北口の復興ドーム天井。8箇所に動物を配置してある。次に左右330メートルの外観。全体は丸ビルの5階、36階から見える。

東京駅は昭和20年5月15日の大空襲で壊滅的な打撃を受けた。

東京駅は大正3年12月18日に開業式、20日に業務スタート。佐賀かつら出身のたつごきんご博士が設計した。当時の大物で帝大の教授だった。東京駅の設計は大学をやめ、個人で建築事務所を作って(スタッフは10名程度)

はじめにエレナドムツェルに相談、彼は通過駅にした方が良く進言しドイツに帰った。次のパルツァーは和風建築の図面を引いていたが辰野金吾は洋式にかえた。最初の案は一階だった。当時、後藤新平が総裁になり3階建てにせよ！4倍近く予算がついてドームもついた。日露戦争の後に建設がスタートし、大正に入って完成した。

オランダのアムステルダム駅を模していると言われるがそうではない。独自のオリジナルなデザインで色々な建物がヒントになっている。

東京駅では要人が事件に巻き込まれている。大正10年には原敬首相が殺されている。場所は丸の内南口の外から入ると左手に現場プレートが残っている。

昭和5年にはライオン宰相と言われた浜口雄幸首相が撃たれている。新幹線の中央口の円形階段手前にプレートが埋め込まれている。傷が致命傷で命を落とす。

東京駅は大正・昭和・平成の天皇、皇室はじめ政財界の大物が使った駅です。

関東大震災時にも基本構造はびくともなかった。頑丈に作られていた。奇跡に近い。

昭和20年5月15日の東京大空襲、空から爆弾を落とされ、三階部分は破壊され丸い丸いドームの屋根は吹き飛んだ。東京駅が狙われ交通網は遮断された。

戦後、東京駅は日本の玄関駅で鉄道の生命線。突貫の応急処置がなされ2階建てにして再スタートした。

佐賀出身の原口さんと東京駅の関係は？高校時代、九州佐賀に住んでいて東京に出たいという願望が強かった。高校の図書部の先輩が東京にでてハガキをくれた。九州からの列車が東京駅に着いた時、2階の駅(高架ホーム)に着いて驚いた！と書いてあったのをよく憶えている。浪人中の夏に東京に行きたい気持が強くなり東京にすむ叔父を訪ねた。昭和33年、叔父は丸の内に勤めていたので新丸ビルの屋上から東京駅をみて大きいな……と感じた。カメラに入りきれない大きかった。当時の写真が一枚残っている。写真から当時の感動が伝わってくる。大きさを実感！東京駅周辺の昭和30年代は静かだった。バスもちらほら……

九州から東京に来る列車の時刻を今も良く憶えている。長崎始発、佐賀16時16分、東京着が翌日の16時15分。23時間59分の旅。あと一分でまるまる24時間。列車が大混雑したのを記憶している。一昼夜混雑列車に乗るのは大変！座れ名人は通路に座っていた……

鉄道ライターの走りは松本清張(九州小倉出身)の「点と線」鉄道作家の内田ひやっけん。鉄道好きと広言しはばからなかった。「あほう列車シリーズ」で有名。色々精通していた。宮脇 俊三(みやわき しゅんぞう、1926年12月9日 - 2003年2月26日)。阿川寛之などがいた。川端康成も鉄道が好きだった。

今は千葉の南舟橋に住む。東京へは快速で25分の距離。よく使う。東京駅は相変らず不動の地位の中央駅。日本の玄関駅として世界のどんな駅にも遜色の無いものである。機能・みてくれ 申し分ない……